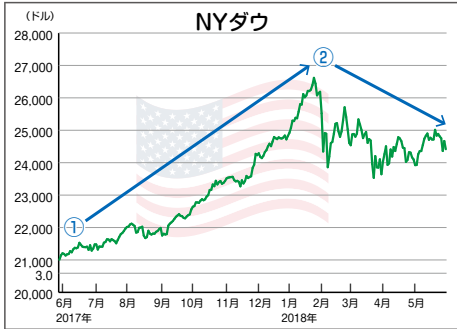


マーケット情報

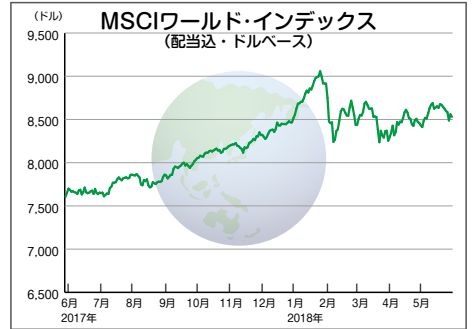
対象期間：2017年5月末～2018年5月末



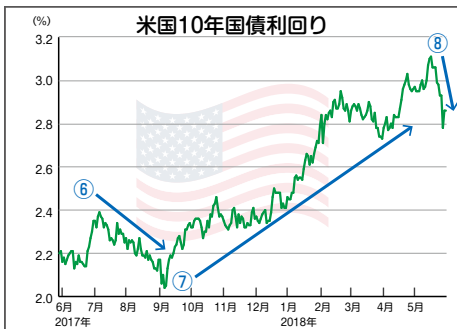
データ出所：S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス、Bloomberg



データ出所：©日本経済新聞社、Bloomberg



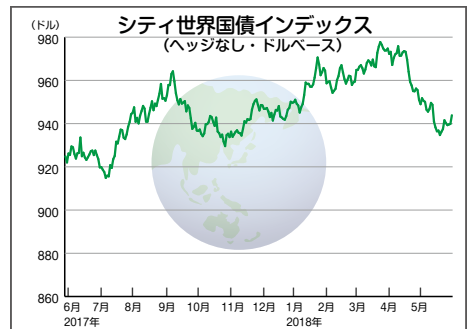
データ出所：MSCI Inc.、Bloomberg
※MSCIワールド・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を含む世界の先進国で構成されています。同指数に対する一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。



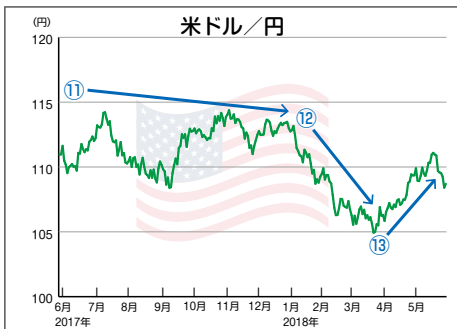
データ出所：Bloomberg



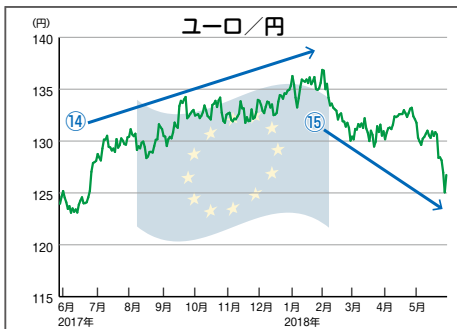
データ出所：Bloomberg



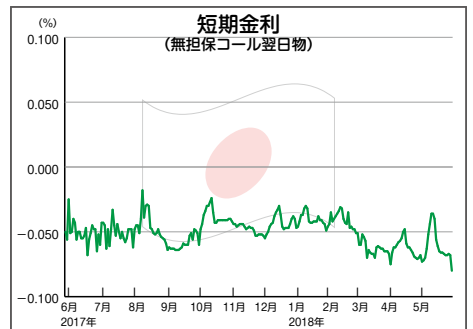
データ出所：シティグループ・グローバル・マーケット・インク、Bloomberg
※シティ世界国債インデックスはシティグループ・グローバル・マーケット・インクが開発した、世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。



データ出所：三菱東京UFJ銀行、Bloomberg



データ出所：三菱東京UFJ銀行、Bloomberg



データ出所：Bloomberg

※ MSCI ワールド・インデックスとシティ世界国債インデックスは、ドルベースでの表記です。世界株式型、世界コア株式型、世界債券型のベンチマークおよび指数は円換算したものであり、為替レートの影響を受けるため、上記のチャートと連動しないことがあります。円ベースのベンチマークおよび指数につきましては、1年間の特別勘定の動きまたは各特別勘定の設定率指数推移をご確認ください。

マーケットに影響を与えた出来事

外国株式市場	日本株式市場
<p>(米国)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2016年11月の米大統領選において共和党のトランプ氏が勝利すると、経済政策への期待感から米株は上昇する展開となった。その後も、良好な雇用環境や堅調な米国経済、また税制改革・インフラ投資政策への期待を背景に、NYダウは最高値を更新した。(①) 2018年1月の雇用統計で賃金上昇率の伸びが加速したことを受けて、将来の利上げ加速が台頭し、金融引き締め懸念から株価が急落した。その後も、米中貿易摩擦の激化懸念、長期金利の上昇、南欧諸国での政局不安の強まり等が重しとなり株価は軟調な展開が続いた。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> トランプ政権の政策実行性への不安や地政学リスク懸念から株価の上昇が抑えられる場面もあったが、米国株の堅調な推移や良好な国内企業業績見通しを背景に株価は大幅に上昇し、バブル崩壊後の高値を更新した。(③) 米長期金利の上昇観測に端を発した世界同時株安の影響を受けて、日本株式市場も急落した。その後は、米中貿易摩擦の激化懸念を背景に対ドル為替で円高が進行し、株価は軟調に推移した。(④) 米中貿易摩擦への警戒感の後退や、米長期金利の上昇を背景とした円安の進行を好感して、日経平均株価は23,000円台を回復したものの、円高ドル安進行や南欧諸国での政局不安の強まりが嫌気され、反落。(⑤)
外国債券市場	日本債券市場
<p>(米国)</p> <ul style="list-style-type: none"> トランプ政権の政策の実効性に懐疑的な見方、地政学リスクの高まり、緩慢な物価上昇を背景に、金利の上昇は抑えられる展開へ。(⑥) 良好な経済環境からFRBによる利上げが早まるとの見方が強まったことや、財政赤字拡大に伴う国債の大幅な増発による需給悪化への懸念、原油価格の上昇に伴うインフレ期待の高まりから10年債利回りは一時3%台に乗せるまで上昇した。(⑦) その後は、米国のイラン核合意離脱、米朝首脳会談の中止報道、南欧諸国での政局不安の強まりを背景としたリスク回避的な動きから、金利は大幅に低下した。(⑧) 	<ul style="list-style-type: none"> 日米株高を背景に金利が上昇する場面もあったが、物価の伸びの弱さから日銀の金融緩和政策の長期化見通しが台頭したことなどで金利の上昇は抑えられた。また地政学リスクの台頭から、リスク回避姿勢が強まり、日本国債は買われ、金利は低下基調へ。一時、10年債利回りはマイナス圏まで低下した。(⑨) 日銀による債券の買入額減少や海外金利につられる形でやや上昇に転じた。しかし、日銀による指値オペの実施や、黒田日銀総裁の再任案から、今後の金融緩和縮小見通しが後退したこともあり、金利の上昇が抑えられる展開が続いた。その後は、米金利の先高値の強まりから金利が上昇する場面が見られたが、米国のイラン核合意離脱、米朝首脳会談の中止報道、南欧諸国での政局不安の強まりから、米独金利に連動する形で低下した。(⑩)
外国為替市場	外国為替市場
<ul style="list-style-type: none"> ドル/円は、FRBの利上げやトランプ米大統領の政策への期待がドル高要因となったものの、同氏のドル高牽制発言や地政学リスクの高まりからドルの上昇は抑えられた展開が続いた。(⑪) トランプ政権が推進する保護主義とドル安誘導、そして税制改革・インフラ投資政策に伴う財政赤字拡大への懸念からドル安が進展した。さらに、米中貿易摩擦の激化懸念によるリスク回避的な円買いの動きが強まり、一時105円台を割り込んだ。(⑫) 米中貿易摩擦懸念の後退や米朝対立の沈静化から、リスク回避姿勢が後退したことに加え、米長期金利が3%を上抜けたことでドル買いが優勢となり、一時111円台まで上昇した。しかし、南欧諸国での政局不安の強まり等からリスク回避的な円買いの動きが強まり、再びドル安に転じた。(⑬) ユーロ/円は、地政学リスク懸念の高まりからユーロ安となる場面があったが、堅調なドイツ経済や、フランスでは大統領選挙で中道派候補が当選したことを契機にユーロ高に転じた。その後もユーロ圏景気の回復やECBが2018年からの量的緩和縮小を決定したことからユーロ高が一段と進んだ。(⑭) ドイツやイタリアの政治的不透明感や、米中貿易摩擦の激化懸念からリスク回避姿勢が強まり、ユーロ安の展開が続いた。その後も南欧諸国での政局不安の強まり等から、ユーロ安が一段と進んだ。(⑮) 	